

漁 況 海 況 予 報 事 業

仲村 俊毅・十三 邦昭・大川 光則
菊谷 尚久・佐々木武三・植木 龍夫
中田 凱久・中川 賢三・涌坪 敏明
黄金崎栄一

発 表 誌 名

昭和61年度、漁況海況予報事業結果報告書

抄 録

I 海 況

1. 日 本 海

対馬暖流域の水温は、9月までは平年より低めの状態が続いたが、10月以降では平年より高めで推移した。対馬暖流の水塊深度・暖流巾は共に平年並かやや下回っていた。北上流量は平年を下回っており、特に5～7月ではかなり下回り弱勢傾向が続いた。

2. 太 平 洋

津軽暖流の流勢は平年に比べ、春～秋季まではやや弱勢傾向で推移し、初冬にはやや回復傾向となった。親潮系水は、3月にはかなり沿岸寄りにあり、水温も0℃以下がみられた。その後徐々に後退したが、11月でも強勢な状態にあった。

II 漁 況

漁況の大きな特徴は、日本海沖合スルメイカの不振であり、本県船が本格的に沖合操業をした昭和47年以来の最低となった。沿岸スルメイカは、不振であった前年に比べ、日本海側で1.2倍・津軽海峡で4倍・太平洋で2倍となったものの、日本海沖合スルメイカの不振のため、全体では前年比56%で統計整理の整った昭和40年以来最低の水揚げとなった。

一方、アカイカは流網では平年並となったものの、釣では過去最低の水揚げとなった。釣・流網を含めた水揚げ量も流網が始まった昭和54年以来最低の水揚げとなった。